

自著と  
その周辺

新版 自己免疫性膵炎  
—病態から・診断治療まで—

編集：岡崎和一 川 茂幸 神澤輝実

診断と治療社

216頁

2009年12月刊行

定価 5,800円+税

自己免疫性膵炎は発症に自己免疫学的機序が推定される特異な慢性膵炎です。1992年に東京女子医大の土岐先生らにより、び慢性膵管狭細型膵炎として報告されて以後、本邦を中心に研究が進められ成果を世界に発信してきました。2001年に「自己免疫性膵炎—概念と病態 up-to-date—」が診断と治療社から刊行されましたが、その後、本疾患とIgG4との関連が信州大学より発表され、診断基準が2001年、2006年に提唱され、また2009年には診療ガイドラインが刊行され、病態・診断・治療に関して本邦を中心に多くの論文が世界中に発信されてきました。今回これら自己免疫性膵炎に関する最新の研究成果を集大成したものとして、同社から「新版 自己免疫性膵炎—病態から・診断治療まで—」が発刊されました。私自身編集に携わらせていただき、信州大学の多くの先生が、本疾患に関する信州大学の研究成果を各章で執筆しています。是非、多くの会員の先生に読んでいただければと思います。

自己免疫性膵炎には多種多様な膵外病変が合併します。涙腺・唾液腺炎、下垂体炎、甲状腺機能低下症、呼吸器病変、硬化性胆管炎、後腹膜線維症、尿細管間質性腎炎、前立腺炎、大動脈炎などまさに全身諸臓器に分布することが明らかになってきました。そしてこれら膵外病変の病理組織を詳細に検討すると、膵病変と同様著明なIgG4陽性形質細胞の浸潤を認め、同様の病態が背景に存在することが分かってきました。現在、膵病変とこれら膵外病変を包括的に、全身性疾患「IgG4関連疾患, IgG4-related disease」として提唱されるようになりました。現在、この新しい全身性疾患については世界的に非常に注目され、世界中の研究者がその概要を明らかにしようとしています。本書では特に、膵外病変に関して最新の情報をまとめ、全身性疾患の視点からも本症を理解していただけるのではないかと考えます。「IgG4関連疾患, IgG4-related disease」の多くの部分は信州大学から世界中に発信されています。臨床各科、病理、中央検査部、関連病院などの多くの先生の研究業績が凝縮されているように思います。

(信州大学健康安全センター 川 茂幸)